

鼻は、空気の通り道であると同時に、匂(におい)を感じる器官です。鼻の孔(あな)にある鼻毛は空気と共に吸い込んだホコリを取り除くフィルター(びくろ)の働きをしています。鼻の孔の奥に『鼻腔(びくろ)』という空洞(くうどう)があり、鼻腔の表面は薄い粘膜で覆われています。鼻腔の上側の一部分に、匂いをキヤッチする『嗅(きゅう)粘膜』があり、嗅粘膜は目の後ろ側にあります。

私たちは吸い込む空気中には、種々の匂い成分が含まれています。鼻の孔から入った匂い成分は、嗅粘膜に付着し、その刺激が嗅神経により大脳へ伝わり、初めて匂いを感じるのです。だから、かぜや鼻炎で鼻づまりが起き

## 心とからだの栄養

能岡 浄 [45]

ている時、鼻腔の粘膜が腫(は)れて空気が通り抜けられず、匂い成分が鼻腔に入っても嗅粘膜まで届かないので、匂いを感じません。また、嗅粘膜や嗅神経などに異常が

「匂いを感じないため、味も分からない」という味覚にまで影響を及ぼす「風味障害」もあります。嗅覚障害は、昔からある病気ですが、視覚や聴覚の障害に比べ、生活にあまり支障を来たさないため軽視されてきました。しかし最近、QOL

### 匂いを感じなくなる「嗅覚障害」

#### 「風味障害」は味覚にまで影響

将来に残したい「香りのある風景100選」を発表しました。祇園のおしろいとびん付油(京都市)、南部せんべい(盛岡市)など、情緒あるものが集められました。食品の香りは、一般に数十〜数百種類もの香り成分が混じり合ったもの

60歳のK子さんは5年前、交通事故に遭った後の体験を話されました。「頭を打ち、約一カ月は意識が無かった。病院でいような治療を受けたが下半身はマヒしたままで、車椅子生活を余儀なくされ、泣いて暮らす毎日でした。そんな私を見かねてのものが目には見えなくて生きている」と感動された、ある念仏者の詩を思い出した。また、交通事故に遭う前の55年間、見えず気づかなかった無数の生き物が、私と共生していることを車椅子生活を通して発見できたように思います」と明るい顔で話されました。忙しい日常生活で、ふと立ち止まって五感を働かすと、自然の営みに気づき心が休まるはず。 (大阪府立看護大学医療技術短期大学部・助教)

(クオリティ・オブ・ライフ生活の質)に対する関心が高まるにつれて、嗅覚も重要視されるようになってきました。「飯やミソ汁などよくなってきました。環境省は「地域の良い香りを再発見する」とが悪臭問題についての取り組みにつながる」との趣旨で、平成13年10月30日、低下してしまいます。

で、これらの成分を含む割合により、個々の食品の独特な香りが現れてきます。「飯やミソ汁などの匂いを感じないと、食事がおいしいと思わないし、趣味の園芸(ガーデニング)なども十分に楽しむことができず、QOLが著しく低下してしまいます。

夫が車椅子を押して野外へ連れ出しました。最初は自分の境遇を受け入れられず、悲しくて野原や林を通ってもボンヤリ見ているだけで何も感じなかったが、ある晴れた秋の日、そよ風に乗って芳い香りがしてきた。その方向へ行くと、小さな花